

件 名	環境都市の構築に関する調査の進捗状況について
所管部課	環境部環境政策課
事業(結果)の概要	<p>今年度実施している環境都市の構築に関する調査の進捗状況について報告する。 詳細は、別添資料 1 のとおり</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 足立区の地域特性と現状の分析 <p>さまざまな統計から足立区のデータを抽出し、過去からの傾向や他自治体との比較などにより、現状の分析を行っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人口、世帯数、年齢構成 ・産業（農業、工業、商業） ・自然環境、みどり ・公害（相談件数、大気、水質、騒音など） ・ごみ量、資源化の状況 ・エネルギー使用量、温室効果ガス排出量 2 環境都市の構築に向けて今後検討する主な事項 <ol style="list-style-type: none"> (1) エネルギーの効率的な利用 <ul style="list-style-type: none"> ・建築物のスマート化（エネルギー使用量の見える化） ・交通のスマート化（自動車利用の抑制やガソリン車からの転換） ・省エネ技術の研究開発とそれを普及拡大するしくみ（国や都、事業者、研究機関等との連携） ・区施設における電力調達方法や見える化による節電の工夫 ・電力自由化を見据えた対応 (2) 再生可能エネルギーの普及・拡大 (3) 区外の地域との連携 <ul style="list-style-type: none"> ・区内では難しい環境貢献活動の支援（森林整備、大規模な再生可能エネルギー、希少生物種の保全等） ・体験型環境学習など都市と農山漁村とのかかわりの理解促進 (4) 環境学習の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・幼児から大人までの学習機会の提供と充実 ・区民・事業者の自主的な学習と実践活動を支援するしくみ (5) 持続可能な都市づくり <ul style="list-style-type: none"> ・温暖化、環境の悪化などの環境リスクの影響の軽減 ・防災やまちづくりの計画との連携 ・環境実践活動による地域環境力の向上

件 名	第二次足立区環境基本計画改定版の目標に対する進捗状況について	
所管部課	環境部環境政策課	
事業(結果)の概要	<p>標記計画について、平成 25 年度の実績がまとまったので、その概要を計画の 6 つの柱に沿って報告する。(別添資料 2 参照)</p> <p>1 地球温暖化・エネルギー対策</p>	
	主な指標と目標数値	平成 27 年度までに平成 22 年度(基準年)比で電気使用量を 10%、都市ガス使用量を 2%削減する。
	25 年度実績数値	電気 基準年比 9.9%(前年比 1.3%) 都市ガス 基準年比 3.3%(前年比 2.2%)
	評価と今後の方針	平成 25 年度は、電気、都市ガスとも前年使用量を下回った。電気使用量は、目標の 10%削減の達成を目指し、節電の呼びかけや省エネ性能の高い設備機器の導入支援などを進めていく。都市ガス使用量については、すでに環境基本計画の目標である平成 22 年度比 2%減に到達したが、さらなる削減を目指し、啓発活動を行っていく。
	2 循環型社会の構築	
	主な指標と目標数値	ごみ処理量を平成 27 年度までに基準年比で 5%削減する。
	25 年度実績数値	基準年比 2.7%(前年比 1.3%)
	評価と今後の方針	ごみ処理量は、平成 18 年度から少傾向にあり、平成 25 年度も前年より減少した。目標達成に向け、引き続き分別の徹底や資源化を推進していく。
	3 健康・安全な暮らしの構築	
	主な指標と目標数値	大気中のダイオキシン類環境基準適合率 100%を堅持する。
	25 年度実績数値	100%
	評価と今後の方針	ダイオキシン類は環境基準値を大幅に下回っている。今後も環境基準適合率 100%を堅持していく。

4 人と自然の豊かなふれあいの創出

主な指標と目標数値	区内 8 河川のうち、6 河川が生活環境の保全に関する環境基準の C 類型 () を満たす。
25 年実績数値	6 河川が環境基準の C 類型を満たした。
評価と今後の方針	平成 25 年度調査では前年度同様に 6 河川が環境基準を満たした。引き続き、河川環境の調査を継続していく。

C 類型...生物科学的酸素要求量 (B O D) が 5mg/ℓ以下

5 環境に配慮したまちづくり

主な指標と目標数値	平成 28 年度の調査で樹木被覆率 9.4%を達成する。そのため、経年変化を見る指標として、緑視率を 27 年度までに 15.8%に増やす。
25 年度実績数値	緑視率は 14.8% (前年比 0.2 ポイント増)
評価と今後の方針	経年変化を見る指標である緑視率は、昨年度に比べ 0.2 ポイント増加した。目標達成に向けて、公、民間で緑化をさらに促進していく。

6 環境を学び実践の輪を広げる

主な指標と目標数値	身近な環境配慮行動に取り組む人を 10 万人に増やす。
25 年度実績数値	91,079 人 (前年比 5,669 人増)
評価と今後の方針	省エネノート参加者が約 500 人増加し、小学 5 年生を対象とした夏休み子どもエコプロジェクトで 4,388 人の提出があった。あだちエコネット事業登録者数は、交通系 IC カードを中心に約 700 人増加した。目標達成に向け、今まで以上に参加しやすく利用しやすい事業を検討していく。

平成 26 年度第 2 回足立区環境審議会資料

件 名	区施設におけるエネルギー使用量等について																																								
所管部課	環境部環境政策課																																								
事業(結果)の概要	<p>平成 25 年度の区施設におけるエネルギー使用量等をまとめたので、その概要を報告する。</p> <p>1 対象施設 本庁舎、区民事務所、住区センター、生涯学習・スポーツ施設、福祉事務所、保健総合センター、小中学校、保育園、区道の街路灯等</p> <p>2 平成 25 年度エネルギー使用量・ごみ量</p> <table border="1" data-bbox="405 846 1382 1236"> <thead> <tr> <th></th> <th>環境基本計画の目標 (目標年次:平成27年度)</th> <th>平成 25 年度の結果 (平成 22 年度比)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>電気使用量</td> <td>平成 22 年度比 15%</td> <td>71,221,317 k W h (8.1%)</td> </tr> <tr> <td>都市ガス使用量</td> <td>平成 22 年度比 10%</td> <td>3,382,775m 3 (6.6%)</td> </tr> <tr> <td>ごみ量</td> <td>平成 22 年度比 5%</td> <td>2,649 トン (2.8%)</td> </tr> </tbody> </table> <p>3 経年比較</p> <div data-bbox="416 1323 1385 1787"> <p>平成 22 年度を100とした場合の区施設のエネルギー使用量・ごみ量</p> <table border="1"> <caption>図表: 平成 22 年度を100とした場合の区施設のエネルギー使用量・ごみ量 (指数)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>ごみ量</th> <th>都市ガス使用量</th> <th>電気使用量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>20</td> <td>104</td> <td>99</td> <td>99</td> </tr> <tr> <td>21</td> <td>105</td> <td>93</td> <td>98</td> </tr> <tr> <td>22</td> <td>100</td> <td>100</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>23</td> <td>102</td> <td>95</td> <td>89</td> </tr> <tr> <td>24</td> <td>101</td> <td>92</td> <td>91</td> </tr> <tr> <td>25</td> <td>103</td> <td>94</td> <td>92</td> </tr> </tbody> </table> </div> <p>(1) 全体の傾向 エネルギー使用量は、平成 23 年度に震災直後の節電の徹底と一部施設の休止もあって大きく減少したが、その後は横ばい又はやや増加している。平成 25 年度の増加は、平成 23 年 10 月から</p>		環境基本計画の目標 (目標年次:平成27年度)	平成 25 年度の結果 (平成 22 年度比)	電気使用量	平成 22 年度比 15%	71,221,317 k W h (8.1%)	都市ガス使用量	平成 22 年度比 10%	3,382,775m 3 (6.6%)	ごみ量	平成 22 年度比 5%	2,649 トン (2.8%)	年度	ごみ量	都市ガス使用量	電気使用量	20	104	99	99	21	105	93	98	22	100	100	100	23	102	95	89	24	101	92	91	25	103	94	92
	環境基本計画の目標 (目標年次:平成27年度)	平成 25 年度の結果 (平成 22 年度比)																																							
電気使用量	平成 22 年度比 15%	71,221,317 k W h (8.1%)																																							
都市ガス使用量	平成 22 年度比 10%	3,382,775m 3 (6.6%)																																							
ごみ量	平成 22 年度比 5%	2,649 トン (2.8%)																																							
年度	ごみ量	都市ガス使用量	電気使用量																																						
20	104	99	99																																						
21	105	93	98																																						
22	100	100	100																																						
23	102	95	89																																						
24	101	92	91																																						
25	103	94	92																																						

平成 25 年 3 月まで閉館していたギャラクシティ（西新井文化ホール・こども未来創造館）がリニューアルオープンした影響が大きい。

ごみ量については、微増傾向にある。

ア 電気使用量

平成 25 年度の電気使用量は、前年に比べて 1.3%、899,485 k W h 増加した。これはギャラクシティで 1,572,109 k W h 増えたことが大きく影響している。震災前の平成 22 年度に比べると 8.1%減少となった。

イ 都市ガス使用量

平成 25 年度の都市ガス使用量は、前年に比べて 1.8%、59,949m³増加した。これはギャラクシティで 97,512m³増えたことが大きく影響している。震災前の平成 22 年度に比べると 6.6%減少となった。

ウ ごみ量

平成 25 年度のごみ量は、前年に比べて 1.4%、36,790 k g 増加した。このうちギャラクシティで 14,880 k g 増えているほか、全小中学校の合計が 28,476 k g 増えている。震災前の平成 22 年度に比べ 2.8%増加した。

(2) 今後の対策

ア エネルギー使用量・ごみ量が増加した出先施設への対応
24 年度に比べ大きくエネルギー使用量・ごみ量を増やした施設に対してヒアリングを実施し、要因の分析や今後の取り組みについて検討してもらう。

イ エネルギー使用量削減のための新たな手法の検討

エネルギー使用量の見える化や電力調達方法、設備・機器の運用改善や自動制御等、エネルギーを効率的に利用するための新たな手法・サービスが登場している。施設の特性に応じて導入を検討していく。

平成 26 年度第 2 回足立区環境審議会資料

件 名	「あだち環境ゼミナール」の新設について
所管部課	環境部環境政策課
事業(結果)の概要	<p>自発的に環境を学び、考え、環境活動を実践する人材を育成することを目的とする「あだち環境ゼミナール」を9月から開講した。</p> <p>1 あだち環境ゼミナールの概要</p> <p>(1)対象 区内在住、在勤、在学の高校生以上の方</p> <p>(2)講座の実施 9月から来年3月まで毎月一回講座を開催する。専門家の講義のほか、講師も交えて受講生が話し合う参加型(ゼミナール方式)とし、毎月テーマを決め、環境問題を幅広く学ぶ。</p> <p>(3)修了者認定制度 7割以上出席し、終了時に提出するレポートで一定の評価を受けた受講生を「あだち環境マイスター」に認定する。</p> <p>(4)修了者の活用 あだち環境マイスターに認定した者は、本人の希望や習熟度を踏まえ、講座の講師や、次年度のあだち環境ゼミナール、環境イベントなどの企画・運営などに活用していく。</p> <p>(5)スーパーバイザーの選任 環境に関する専門的な知識を有し、ゼミナールを統括し、全体のコーディネートを行うスーパーバイザーを選任した。 白井信雄氏(法政大学地域研究センター特任教授)</p> <p>2 募集方法と応募状況</p> <p>(1)募集期間 7月22日から9月1日まで</p> <p>(2)周知方法 あだち広報(8月10日号)、区ホームページ ツイッター、フェイスブック、チラシ(図書館や駅構内など)、区内の高校、大学には夏休み前の7月中旬に個別に案内</p> <p>(3)応募人数 33人(男性21人、女性12人) 高校生から70代まで幅広い世代から応募があり、辞退者2名を除く31人全員を受講生とした。</p> <p>3 これまでの開催結果</p> <p>(1)第一回 9月17日(水)午後7時から9時まで</p>

区役所 13 階会議室 28 人参加
「環境問題の基本的視点」 スーパーバイザー白井信雄氏

(2)第二回 10月15日(水)午後7時から9時まで
区役所 13 会議室 24 人参加
「気候変動の地域への影響と緩和策・適応策入門」
スーパーバイザー白井信雄氏

4 今後の予定

日付	テーマ	講師
11月19日	地球温暖化緩和策とエネルギー問題	科学技術振興機構低炭素社会戦略センター
12月17日	生物多様性の保全	埼玉県環境科学国際センター
1月21日	ごみ問題と循環型社会の形成	スーパーバイザー 白井信雄氏
2月18日	未定	
3月18日	まとめのワークショップ	スーパーバイザー 白井信雄氏

平成 26 年度第 2 回足立区環境審議会資料

件 名	環境スペシャリスト発掘事業について
所管部課	環境部環境政策課
事業(結果)の概要	<p>今年度からの新規事業として中学生を対象とした環境学習講座「環境スペシャリスト発掘事業」を 8 月から実施しているので報告する。</p> <p>1 事業の概要</p> <p>(1)対象者 区内在住、在学の中学生</p> <p>(2)講座の実施 8 月から 12 月まで全 5 回の講座を開催 区内在住又は在学の中学生を対象として、「環境スペシャリスト発掘講座」(全 5 回)を行い、自発的に環境学習へ取り組む機会を提供していく。</p> <p>2 募集方法 あだち広報、ホームページ、区内各中学校へのチラシ配付で募集</p> <p>3 参加者 7 名(中学 1 年生 5 名、2 年生 2 名)</p> <p>4 これまでの実施内容</p> <p>(1)8 月 19 日(火) 施設見学 東京ガス株式会社根岸工場、(液化天然ガス) かわさきエコ暮らし未来館(メガソーラー)</p> <p>(2)9 月 6 日(土) ギャラクシティでの講義・実験 燃料電池について(東京ガス株式会社東部支店)</p> <p>(3)10 月 11 日(土) ギャラクシティでの講義・実験 紫外線について(独立行政法人産業技術総合研究所)</p> <p>5 今後の予定 11 月 9 日、12 月 6 日に講義を開催し、全 5 回の活動を終了する。 修了者は、「環境スペシャリスト」として認定する。</p>

件 名	「エコ活動ネットワーク足立 (E A N A)」の新設について
所管部課	環境部環境政策課
事業(結果)の概要	<p>これまで環境施策を協働して推進してきた、区民環境フォーラムと温暖化防止区民会議実行委員会を発展的に解消し、自主的に活動する団体等による新たな区民環境組織を設置するので報告する。</p> <p>1 組織の概要</p> <p>(1)名称 エコ活動ネットワーク足立 Eco Activity Network Adachi 愛称 「 E A N A 」(いーな)</p> <p>(2)対象 区内で自主的に環境活動に取り組んでいる団体・事業者等</p> <p>2 活動内容</p> <p>(1)登録団体活動情報の発信 (2) E A N A 交流会の開催 (3)区の環境イベントへの参画 (4)環境活動報告及び区の施策に対する意見・提言</p> <p>3 期待できる効果</p> <p>(1)登録団体の情報発信や交流により、団体間の連携の創出や、自主的な活動の向上に寄与する。 (2)登録団体に情報発信や活動発表の場を設定することで、P R メリットが生まれ、活動意欲の増進を図ることができる。 (3)区の環境イベントへの参画や意見・提言により、登録団体の意見を反映した環境施策・事業の計画や立案が可能となる。 (4)環境ビジネスのチャンスが提供できる。 (5) E A N A の情報発信により、区民への団体活動の周知や環境意識の啓発を図ることができ、あらたな環境活動団体の発生が期待できる。</p> <p>4 想定している参加団体</p> <p>(1) 連合組織及び加盟団体 足立区町会・自治会連合会、足立区民生・児童委員協議会連合会、足立区商店街振興組合連合会、足立区工業会連合会などに加盟する団体</p>

	<p>(2) 事業者 商業施設、清掃関係事業者、ISO取得事業者、交通事業者、金融機関、ライフライン事業者など</p> <p>(3) 大学・学校 区内大学、区内高等学校など</p> <p>(4) その他 地球環境フェア出展区内団体、Rのお店、あだち・そらとつながるプロジェクト(通称:そらつな)登録店、環境活動グループなど</p> <p>5 今後の予定 現在、対象団体等に呼びかけ、募集を開始している。 11月下旬に第1回交流会(EANA発足式)を開催予定 12月からEANAホームページを公開、登録団体随時登録受付開始</p>
--	--

件 名	平成 26 年度環境基金助成事業交付団体の決定について																						
所管部課	環境部環境政策課																						
事業(結果)の概要	<p>平成 26 年度環境基金助成事業について、交付団体を決定したので報告する。</p> <p>1 環境基金助成事業の目的・概要 高環境の実現を目指す活動に対し、環境基金審査会が活動内容を審査し、環境基金から助成金を交付することでその活動を支援する。</p> <p>2 平成 26 年度環境基金助成事業の審査結果 7 月 3 日開催の環境基金審査会において、応募があった 7 つの活動について審査した結果、以下の 6 つの活動について助成を決定した。</p> <table border="1" data-bbox="392 943 1390 1765"> <thead> <tr> <th>申請者名</th> <th>活動名</th> <th>26 年度 交付予定金額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>東京未来大学 小林久美准教授</td> <td>環境意識向上を促す小学校デジタル教材開発とその効果 (26～28 年度)</td> <td>800,000 円</td> </tr> <tr> <td>東京未来大学 小谷博子准教授</td> <td>東京未来大学における環境教育の取組み(25～27 年度)</td> <td>850,000 円</td> </tr> <tr> <td>東京未来大学 竹橋洋毅講師</td> <td>環境配慮行動を促進する心理的要因の検討(25、26 年度)</td> <td>270,000 円</td> </tr> <tr> <td>特定非営利活動法人エコロジー夢企画</td> <td>太陽熱温水器模型キット教材の製作と普及(25、26 年度)</td> <td>700,000 円</td> </tr> <tr> <td>東京電機大学 保倉明子教授</td> <td>あだち野菜からみる食と環境と健康</td> <td>2,500,000 円</td> </tr> <tr> <td>東京電機大学 柘川重雄教授</td> <td>固体高分子型燃料電池用の触媒およびスタック再生の技術開発</td> <td>2,500,000 円</td> </tr> </tbody> </table> <p>3 助成金の交付 今回決定した金額は上限額であり、活動終了後に提出される実績報告書を審査の上、決定金額の範囲内で活動に要した金額を助成する。</p>		申請者名	活動名	26 年度 交付予定金額	東京未来大学 小林久美准教授	環境意識向上を促す小学校デジタル教材開発とその効果 (26～28 年度)	800,000 円	東京未来大学 小谷博子准教授	東京未来大学における環境教育の取組み(25～27 年度)	850,000 円	東京未来大学 竹橋洋毅講師	環境配慮行動を促進する心理的要因の検討(25、26 年度)	270,000 円	特定非営利活動法人エコロジー夢企画	太陽熱温水器模型キット教材の製作と普及(25、26 年度)	700,000 円	東京電機大学 保倉明子教授	あだち野菜からみる食と環境と健康	2,500,000 円	東京電機大学 柘川重雄教授	固体高分子型燃料電池用の触媒およびスタック再生の技術開発	2,500,000 円
	申請者名	活動名	26 年度 交付予定金額																				
	東京未来大学 小林久美准教授	環境意識向上を促す小学校デジタル教材開発とその効果 (26～28 年度)	800,000 円																				
	東京未来大学 小谷博子准教授	東京未来大学における環境教育の取組み(25～27 年度)	850,000 円																				
	東京未来大学 竹橋洋毅講師	環境配慮行動を促進する心理的要因の検討(25、26 年度)	270,000 円																				
	特定非営利活動法人エコロジー夢企画	太陽熱温水器模型キット教材の製作と普及(25、26 年度)	700,000 円																				
	東京電機大学 保倉明子教授	あだち野菜からみる食と環境と健康	2,500,000 円																				
	東京電機大学 柘川重雄教授	固体高分子型燃料電池用の触媒およびスタック再生の技術開発	2,500,000 円																				

件 名	「足立区ごみ出しアプリ」の配信開始について
所管部課	環境部ごみ減量推進課
事業 (結果)の 概要	<p>ごみの分け方・出し方、収集日等をすばやく検索することができるスマートフォン向けアプリケーション「足立区ごみ出しアプリ」の提供を始めたので報告する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 提供開始時期 平成 26 年 9 月 17 日（水）から 2 主な機能 <ol style="list-style-type: none"> (1) ごみの分け方・出し方を、品目名称と分類から検索できる。音声による検索も可能である。 (2) 登録した地域のごみ収集日について、収集日の前日（16 時、18 時）または当日（7 時）のうち、希望した時間にメールでお知らせする。 (3) 資源ごみ買取市の開催場所を地図で表示し、現在地から会場までの道順をナビゲートする。 (4) 粗大ごみの申し込みができる。 (5) 台風の接近や降雪などにより、ごみの収集ができない場合や変更内容について通知する。 3 都内の他自治体で既に配信している類似アプリとの相違点 <ol style="list-style-type: none"> (1) 音声によるごみ出し品目検索が可能 (2) GPS を利用した現在地の設定や資源ごみ買取市までのナビゲートが可能 (3) 希望により、ごみ収集日をプッシュメール()でお知らせすることが可能 プッシュメール：アプリを起動しなくても画面上にお知らせ表示する機能をもったメール 4 周知方法 あだち広報、区ホームページ、フェイスブック等を活用した周知に加え、環境関係イベントにおいて、参加者へのPRを行っていく。さらに、ごみ集積所の看板を活用したPRも実施予定である。 5 今後の予定 現在は、アンドロイド端末にのみ対応しているが、年内を目標に、i-phone などにも広げ、外国語バージョンも整備していく予定である。